

サステナビリティ宣言（5）

コンクリートに関連するステークホルダーとの建設的なコミュニケーションにより、良質な社会基盤整備を図る。

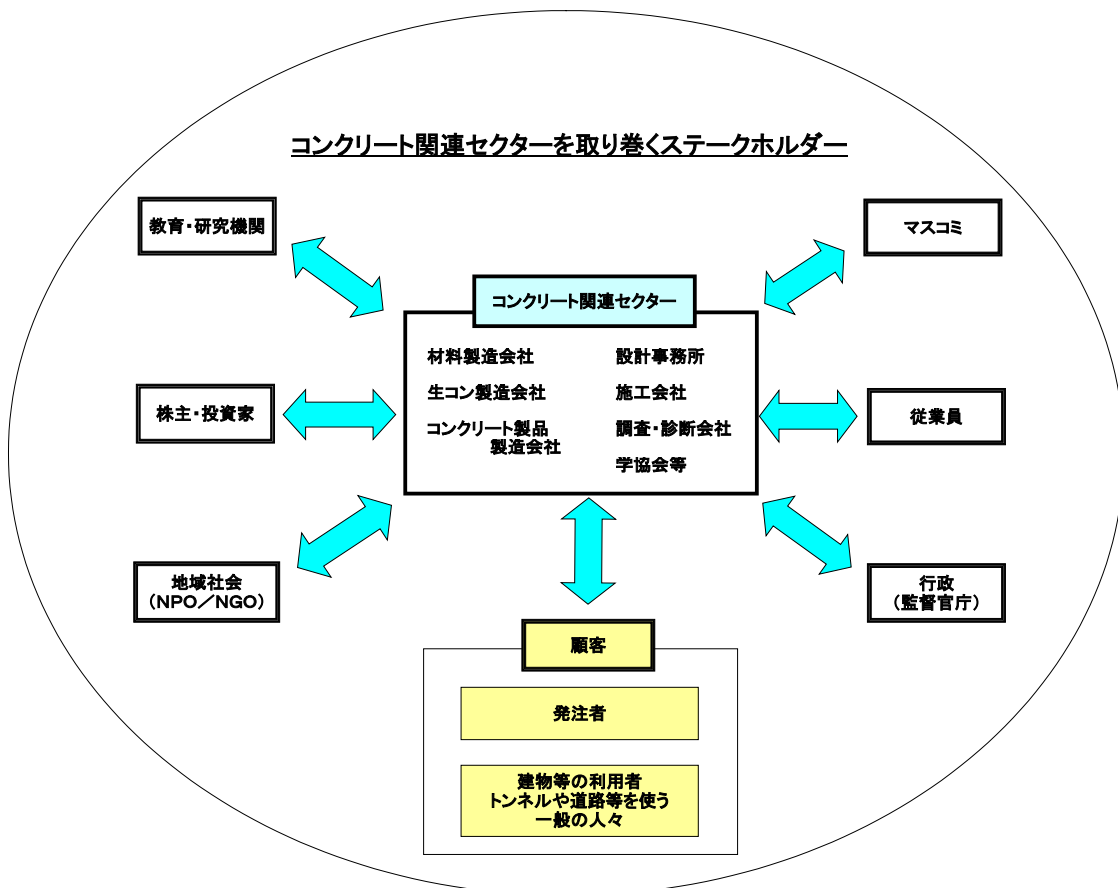
コンクリート関連セクターは、安全・安心に対する社会的責任から、営々と技術を積み上げ、構造物を建設するための設計・施工システムを構築してきたことから、基本的に保守的であった。また、社会との関わりも希薄となりがちであった。本来、建築物を含む社会基盤整備は人間のためのものであるが、多くの利害関係が存在し、要求も多様化している。コンクリート構造物は、一般にその寿命は長いと思われているが、それは適切な設計・施工・維持管理が大前提である。しかし、ともすれば、経済的な制約などにより、その前提条件が崩されることも少なくない。

したがって、コンクリート関連セクターは、その責任と誇りにおいて、関連するステークホルダーと率直かつ建設的なコミュニケーションを図り、社会が必要とする良質な社会基盤整備を行う上で重要な役割を果たす。

1. コンクリート関連セクターを取り巻くステークホルダー

我々コンクリート関連セクターは、コンクリート構造物の建設を通じて様々なステークホルダーと関わりを持っています。関連セクターには、セメント、骨材、混和材料、鉄などの材料製造会社、生コン・コンクリート製品製造会社が存在します。また、設計事務所、施工会社や調査・診断会社、さらにはコンクリートに係る調査・研究を目的とする学協会なども、関連セクターを構成しています。

一方、コンクリート関連セクターは、コンクリート構造物の顧客（発注者）をはじめ、行政機関、関連セクターに属する各企業の株主・投資家や従業員、地域社会、マスコミなどのステークホルダーと様々な関わりを持っています。ここでの顧客は発注者にとどまらず、実際に建設した建物やトンネル・道路等を利用する一般の人々が含まれており、この幅広い関係がコンクリート関連セクターの大きな特徴です。



2. ステークホルダーとの建設的コミュニケーションのための取り組み

(1) コンクリート構造物の利用者（一般の人々）とのコミュニケーション活性化

コンクリート関連セクターは、これまで社会的責任感を持って、安全・安心な構造物建設のための技術開発や、設計・施工システムの構築を追求してきました。一方、コンクリート構造物は多くの人々を支える重要な社会基盤でありながら、コンクリート構造物の寿命の長さや社会のニーズの将来変化を想定した対応が十分ではなかったことも事実です。

そこで今後は、社会との関わり、コミュニケーションを積極的に図ることが重要です。まず、コンクリート構造物の利用者（顧客、一般の人々）に対し、コンクリートを身近な存在として理解、関心を持っていただくための情報発信、PR活動に注力します。

また、コンクリート構造物の利用者、管理者（行政機関等）のニーズを把握するため、コンクリートに係る材料、設計・施工、維持管理等の技術提案を積極的に行うとともに、安全・安心で耐久性のある構造物建設に資する有用技術の開発を推進します。

さらにコンクリートのCO₂削減、循環型社会構築における意義やサステナビリティの重要性について積極的に発信し、一般の人々の理解活動を行ってまいります。現状、構造物の建設に際して、経済的な制約により適切な設計、施工ができず品質確保が困難な状況がしばしば起こっています。良質なコンクリート構造物の建設は、長期的には社会にとって望ましいことであり、一般の人々にコンクリートについて関心を持っていただくことが、質の高いコンクリート構造物の増加、すなわちサステナビリティのある社会へつながるものと考えています。

(2) コンクリート関連セクター内のコミュニケーション強化

建設的なコミュニケーションは、コンクリート関連セクター内でも強化が必要であると認識しています。コンクリート構造物の建設現場では、顧客（発注者）の要望を踏まえ、常に「品質の優れたコンクリートをつくる」と同時に「適正な状態に構造物を維持管理する」との意識を持つことが大事です。現場における関連セクターのメンバーは、円滑なコミュニケーションを図り、品質意識を統一のうえ作業することが求められています。

顧客（発注者）に何らかの経済的制約がある場合は、関連セクターの施工関係者として、良質な構造物を確保できるよう積極的に働きかけを行うことも必要です。

また、現場の関連セクターメンバー間のコミュニケーション強化により、構造物の建設における品質規格、および関連法令・基準類の遵守を図っていきます。